

BOOK NEWS



大洲高校図書館
No. 4 2024年9月



2024年度 上半期 第171回 芥川賞・直木賞受賞作品紹介

《芥川賞》

朝比奈 秋

『サンショウウオの四十九日』

新潮社

杏と瞬の姉妹が彼女たちの叔父の死から杏と瞬の姉妹が彼女たちの叔父の死から四十九日までの期間に「生きること」と「死ぬこと」を考える様子が描かれている。医師としても働く朝比奈秋さんがその経験と驚異の想像力で人生の普遍を描く、世界が初めて出会う物語。



松永 K 三蔵

『バリ山行』

講談社

内装リフォーム会社から外装リフォーム会社に転職して2年。人付き合いを極力避けてきた主人公の波多は同僚に誘われるまま六甲山登山に参加する。その後、社内登山グループは正式な登山部となり、波多も親睦を図る目的の気楽な活動をするようになっていったが、職人気質で職場で変人扱いされ孤立しているベテラン社員の妻鹿があえて登山路を外れる難易度の高い登山「バリ山行」をしていることを知ると、波多は同行することに。

会社も人生も山あり谷あり、バリの達人と危険な道行き。圧倒的な生の実感を求め、山と人生を重ねて瞑走する純文山岳小説。



《直木賞》

一穂 ミチ

『ツミデミック』

光文社

コロナ禍で生じた罪をテーマにした短編集。

数年にわたるコロナ禍で生きる人々の六つの「罪」を描く。前半の三編は気持ちの奥深いところを揺さぶられるような物語であり、自由を奪われた日々のあの息苦しさ、やり場のなさが浮かび上がってくる。後半の三編は穏やかに収束に向かっていったパンデミックに呼応するように、ほの淡い希望が灯る。タイトルの「ツミデミック」は「罪」と「パンデミック」をかけた造語。



芥川賞・直木賞ってどんな賞？

芥川賞は芸術性を踏まえた一篇の短編あるいは中編作品に与えられる文学賞で、選考基準は「芸術性」です。芸術性とは、文章の美しさや表現方法の多彩さなど、文学的な価値を備えていることです。

直木賞は日本の大衆性を押さえた長編小説作品あるいは短編集に与えられる文学賞で、選考基準は「大衆性・娯楽性・芸術性」の3つです。大衆性とは、幅広い読者層に受け入れられる作品であること、娯楽性とは、読みやすく、面白く、手に汗握る作品であることです。

図書委員の今月のおすすめ

ファラオの密室

白川尚史

舞台は古代エジプト。ミイラのセティは心臓に欠けがあるため冥界の審判を受けることができない。欠けた心臓を取り戻すため、現世に舞い戻ったが期間は三日。その頃地上ではピラミッドから先王のミイラが忽然と消え、人々はアテン神以外の信仰を禁じた先王の意志ではないかと疑う。不可逆犯罪か、神の御業か!! 古代エジプトの信仰を背景に描かれる本格ミステリー。2024年第22回「このミステリーがすごい！」大賞。(宝島社)



蜘蛛の糸・杜子春 芥川龍之介

蜘蛛の糸は10分以内でも読める物語になっており、読書が苦手な方にもおすすめ出来る作品です。児童文学作品として描かれたので、ストーリーもシンプルで分かりやすいです。仏教がベースの物語で、読んでいてとても面白いので、一度読んでみてはどうでしょうか。(新潮文庫)

